

芸術工学研究院 新型コロナウイルス（COVID-19）関連の研究・教育等の取り組み紹介

新型コロナウイルスの流行は、人々に公衆衛生上の脅威を与えただけではなく、暮らし方、働き方、学び方、人との付き合い方など世の中のあり方を大きく変えました。また、早期の終息が見通せず、新型コロナウイルスと共存する社会のあり方が模索されています。

九州大学大学院芸術工学研究院にはデザインに関わる多様な研究分野の研究者が所属し、それぞれが研究の強みを活かして社会の課題解決に取り組んでいます。この度の新型コロナウイルスによる社会の課題に対しても、芸術工学研究院のリソースを活かして、様々な取り組みが進められ、本リストはその一部を紹介しています。

本リストは適宜更新します。芸術工学研究院の取り組みをご覧頂ければ幸いです。

問合せ先：

芸術工学部事務部総務課企画・広報係

メール：gkskoho@jimu.kyushu-u.ac.jp

カテゴリー	タイトル	内容	リンク先
学術論文	Implications of human activities for (re)emerging infectious diseases, including COVID-19	新興感染症は人々の健康と経済に重大な影響を与えるため、その対応が世界的に重要になっています。感染症は人間、動物、環境が相互に関連しているため、将来的に新たな病原体の発生を止めることは困難です。しかし、新興感染症に対する早期警告システムやコントロール、予防を実現することにより、その拡散リスクを低減することが可能です。このレビュー論文では、感染症の伝染と蔓延に人間の活動がどのように関与するか、そしてどうやったらそれらを防げるのかを説明します。さらに、COVID-19として知られる新しいパンデミックの世界的な感染拡大の主な要因について説明し、議論します。 Journal of Physiological Anthropology volume 39, Article number: 29 (2020) (九州大学大学院芸術工学研究院 講師 西村貴孝)	https://jphysiolanthropol.biomedcentral.com/articles/10.1186/s40101-020-00239-5

コンペティション SDGs (国際)	デザインで世界を変えよう！ SDGs Design International Awards 2020	世界の学生を対象に、SDGs にデザインで取り組むコンペティションを開催します。 デザインに関心のある世界中の学生から世界を救う“デザイン”を募り、優れた解決方法を世界に示す SDGs Design International Awards を今年も開催します。世界中の学生から、人類の課題を解決するクリエイティブアイデアを募集します。 本年度のアワードのテーマは「パンデミックを乗り越えるためのデザイン」で、昨今の切迫した課題であるコロナウイルスの世界大流行(パンデミック)に焦点を当てています。世界規模で起こるコロナウイルスの急速な感染拡大と多大な影響を受けて、私たちには今、そして将来に渡って、全ての人の持続可能な世界を安定するために何ができるのでしょうか。 5 月～ 9 月 募集テーマの発表・受付開始 11 月 10 日 最終プレゼンテーション審査・授賞式 主催：九州大学大学院芸術工学研究院 SDGs デザインユニット、九州大学未来デザイン学センター 共催：九州しあわせ共創ラボ(九州博報堂) (九州大学大学院芸術工学研究院 教授 井上滋樹、准教授 池田美奈子、講師 張彦芳)	https://www.sdgs.design.kyushu-u.ac.jp/awards/
地域支援 オンライン活用	「黒川庭園の喫茶アート養生会」(リモート開催・発信)	11 月 14 日(土)15:00-17:00 復興支援のアートワークの鑑賞および交流会をオンラインで行い、ネット中継・配信します。コロナ状況下で希薄となった多世代交流や、自然や身体への感覚を取り戻していきます。 9-11 月までに共創したアートや交流の様子を、録画・編集し、その映像をオンライン上で被災地の方々と鑑賞し、その様子を、限定公開で YouTube 配信(生中継)を行い、幅広くコメントを寄せてもらいます。 1. 日本茶インストラクター・山科康也による野点実演指導 2. 朝倉地域の自然と記憶をテーマにした、短詩五七五の連句の輪をつくる AI によって作詩をサポートする。 3. メディアアート「デジタル枯山水」「アートパフォーマンス共生」を、黒川共星の里において無観客で上演した際の映像鑑賞 4. 杷木小学校の子ども達との、音と身体表現ワークショップの映像鑑賞。 自然の音や動きを、楽器以外の音や身体で再現する。 (九州大学大学院芸術工学研究院 教授 知足美加子)	http://www.design.kyushu-u.ac.jp/~tomotari/2019kurogawa.garden2.html

アニメーション (映画)	映画『突然失礼します！ コロナ世代、映画で闘う。』 OP、ED アニメーション作品制作	知足研究室の山口健人(CCD 修士 2 年)のアニメーション作品が、2020 年 8 月公開の映画『突然失礼します！コロナ世代、映画で闘う。』のオープニングとエンディングに採用されました。これは、コロナ禍の中で、全国 120 をこえる大学が協力し、創造の力で連携する活動です。 (九州大学大学院芸術工学研究院 教授 知足美加子)	https://note.com/a_japaraion/n/n6c9c2d29a3e6
オンライン活用 芸術活動	「演劇と社会包摂」制作実践講座	芸術と社会包摂に関する現場で、日本全国や世界で活躍するアーティストたちと、福岡を拠点に活躍する障害のある俳優たち。彼らと行う身体表現ワークショップを通し、受講者が自らの身体経験によって「障害」「ケア」「表現」について深く知り、考えることで、社会包摂の具体的なイメージを喚起する場をつくります。3 年目となる今年は、対面プログラムが難しいことからオンラインで実施しました。オンラインでは参加者が、それぞれの日常を過ごす空間からつながるため、テーマを「それぞれの日常を交換する」としました。身体障害者、アーティスト、そして、異なる背景を持った受講者が、それぞれの日常を交換し、オンラインアプリならではの機能をいかながら表現を行う場は、対面に劣らない、表現の可能性や、人の数だけ存在する日常のあり方に気づきを与えるものとなりました。さらに、思考を深めるためのディスカッションも公開で実施し、YouTube で配信しました。 (九州大学大学院芸術工学研究院附属 ソーシャルアートラボ)	2020/6/13 オンラインワークショップ http://www.sal.design.kyushu-u.ac.jp/200613_onlineworkshop.html 2020/6/13 オープンディスカッション http://www.sal.design.kyushu-u.ac.jp/200613_opendiscussion.html 2020/7/18 オンラインワークショップ http://www.sal.design.kyushu-u.ac.jp/200718_onlineworkshop.html 2020/7/18 オープンディスカッション http://www.sal.design.kyushu-u.ac.jp/200718_opendiscussion.html 2020/7/18 オープンディスカッション (Youtube 配信動画) https://www.youtube.com/watch?v=oKDtgWzFjY0&t=5555s
オンライン活用 芸術活動	奥八女芸農学校	「奥八女芸農学校」は、2017 年度から福岡県八女市黒木町笠原地区において、受講生と現地で合宿しながら、「アート×農」の時間を過ごすことで、人と人、自然と人がつながる持続的で豊かな暮らしについて考えてきました。演出家・民俗芸能アーカイバーの武田力氏を講師に招き、昨年度は八女茶山唄を題材にした「八女茶山おどり」を創作、発表しました。今年度は合宿の実施が難しいため、9 月に週一回のペースで行うオンラインと対面のワークショップに加え、講師が現地の物産とそれに関する演出を「便り」として受講生に送るという実験的な手法を試みます。異なる手法を合わせ、味覚、触覚、嗅覚など身体で感じる「現地」と、受講生が「生活を営む土地」との縁をアートで結び、現代における豊かな暮らしのあり方を身体で探っていきます。この講座では、農のある暮らしと自らの生活との接点を見つめるとともに、コロナ時代の新たな観光や身体のあるあり方を提示します。 (九州大学大学院芸術工学研究院附属 ソーシャルアートラボ)	http://www.sal.design.kyushu-u.ac.jp/200909-0930_okuyame.html

地域支援 オンライン活用	復興支援プロジェクト	2017年の九州北部豪雨災害で被災した地を、禅をイメージした「黒川アートガーデン」として再生する取り組みを2018年度より行なっています。2018年度には現地の視察、2019年度には被災地において創造的な活動により復興支援を行なっている人々取材し制作した小冊子「かたり」を発行するとともに、被災した美術館「共星の里」(朝倉市)に、禅の庭と災害流木を使用した東屋をつくりました。今年度は、この庭の中で、お茶やアートを楽しむ喫茶養生会を開く予定でしたが、現地での開催がコロナの影響でできなくなりました。代わりに、リモートでの「野点NODATE」実演指導や、朝倉の自然と記憶をテーマにした短詩五七五を地域内外の方と協力して連句の輪を作る「連句会」の他、デジタル技術、即興音楽、身体表現などを通したワークショップを実施し、配信するイベントを、11/14(土)に行う予定です。 (九州大学大学院芸術工学研究院附属 ソーシャルアートラボ)	九州北部豪雨災害 復興支援団体紹介小冊子“かたり” http://www.sal.design.kyushu-u.ac.jp/pdf/2019kartari.pdf 11/14(土)のイベント詳細は、ソーシャルアートラボ HP にて、近日公開予定 http://www.sal.design.kyushu-u.ac.jp
学術 芸術 ケア	2020年度アートミーツケア学会総会・大会 「アートミーツケア・ミーツコロナ」 2020年11月20日(金)～22日(日)	アートミーツケア学会は、人間の生命、ケアにおけるアートの役割を研究する場として、また人間を幸福にし、人間の全体性を回復していくためのアートの力を社会にいかしていくためのネットワークとして2006年に設立されました。2020年度の大会・総会は九州大学大橋キャンパスを拠点にオンラインで開催されます。 新型コロナウィルスの感染拡大に伴い、アートとケアをつなぐ現場では、さまざまな困難にぶつかっています。今大会では「アートミーツケア・ミーツコロナ」をテーマに、コロナ禍で遭遇したさまざまな発見や気づきを共有し、これからのアートミーツケアについて考えていきます。とりわけ、大会テーマと同じタイトルを冠した特別企画①では、学会員から事前にお寄せいただいた「with コロナ体験」を紹介しながら、課題や可能性について議論し、ポストコロナの世界を展望します。 (九州大学大学院芸術工学研究院 准教授 中村美亜、助教 長津結一郎)	http://artmeetscare.org
国際セミナー	Strategies for the Development of Joint Research at a Distance	Coimbra Group (https://www.coimbra-group.eu/) 国際セミナーシリーズ、“Strategies for the Development of Joint Distance Research”セッションにて、知識科学の観点から“A Strategy for Knowledge Co-Creation in Distance”と題した招待講演を行いました。主にブラジルの国立大学にあたるFederal Universityの学長・学部長クラス、国際交流に関わる組織や政府関係者を中心に16カ国700名が参加、Dr. Padmanabhan Seshaiyer (George Mason University, USA)およびDr. Neville Wylie (University of Stirling, UK)と共に、サンパウロ大学 Soraya Smaili学長モデレートによるパネルディスカッションにパネリストとして参画しました。オンライン国際共同研究の課題を乗り越えるための考え方や事例紹介、研究活動へのコロナ禍の影響のジェンダーギャップを示す調査結果が共有され、活発な議論が展開されました。開催日:2020年8月19日 (九州大学大学院芸術工学研究院 准教授 松前 あかね)	http://www.design.kyushu-u.ac.jp/~matsumae/matsumaelab/2020/08/26/coimbra2020/

国際シンポジウム	Global Covid-19 Online Innovation Symposium: Innovation and Societal Transformation	“A side effect of the corona crisis is a geographic democratization. When we are physically isolated, no place is less distant.” 世界各国でのロックダウンなど新型コロナウイルスによる社会的影響が顕在化しはじめた3～4月に、Linkoping 大学(スウェーデン)・UFABC(ブラジル)・IISc Bangalore 大学(インド)ほか Design Society 関係者らと緊急シンポジウムを開催し、ソーシャル・イノベーションの観点から”Disasters from the Perspective of Societal Transformation Mechanisms”と題した寄稿および講演を行いました。 シンポジウムでは、下記の趣旨・テーマから、各国の状況や新たな兆候、それらの背景や様々な着眼点が共有されました。 The Covid-19 crisis has put a huge strain on our society on many levels from the health system, education, economy etc. However, it also creates a breeding ground and a hothouse for innovation. We see that there is a lot of Innovation in the wake of the corona crisis in so many fields; from business, education, technology, to social innovations that will create a lasting value in so many areas of society. It is also creating a huge push to digital transformation, and it is safe to say that the world will not be the same after the corona crisis. A way to categorize innovations could be: ・ Products and services to provide care and to fight the virus. ・ Products and services in response to the lock-down. ・ Solutions that will be persistent after the crisis, to generate enduring value to society. The goal of this symposium is to capture ideas and to bring a global perspective on innovation and technology with a view to creating resilient systems. 開催日:2020 年 4 月 23 日 (九州大学大学院芸術工学研究院 准教授 松前 あかね)	http://www.design.kyushu-u.ac.jp/~matsumae/matsumaelab/2020/04/24/covid-19symposium/
感染予防 ヘルスケア	共同研究 「口腔ヘルスケアと生活環境の除菌に関する課題の探究」	口腔ケアは誤嚥性肺炎などの疾患の予防のみならず感染症リスクの低減にもつながると言われています。私たちはポストコロナ時代における生活者の「清潔性」に関する意識の変化に着目し、口腔ヘルスケアと生活環境の除菌に関する医療現場や生活者の潜在的ニーズを明らかにし、課題を解決するための基本デザイン方針を検討・提案することを目的として、歯っぴー株式会社との共同研究に着手しています。 (九州大学大学院芸術工学研究院 助教 秋田直繁)	

情報社会	デザインエンジニアリング 共同研究プロジェクト「暮らしの中の IoT」	コロナ禍の中、遠隔コミュニケーションの新しい在り方問われています。本プロジェクトは、デザインとエンジニアリングの両者の視点から、暮らしの中における IoT (Internet of Things: モノのインターネット) のあるべき姿を探究し、曖昧で複雑な人と人との繋がりを私たちがより豊かに感じることができるような仕組みとプロダクトをデザイン・実装しました。時や空間などの物理的距離を凌駕し、人とモノと情報の複雑な関係の中に生じる動的なコンテキストをデザインする方法を研究発表し、その成果をまとめたブックレットを発刊しました。発刊日 2020 年 5 月。【共同プロジェクト: 株式会社タカギ、久留米工業高等専門学校、九州大学大学院芸術工学研究院 秋田研究室】 (九州大学大学院芸術工学研究院 助教 秋田直繁)	
オンライン活用	Design-Technology Education Online Exchange Forum	In March this year, a Design-Technology workshop on the use of Robotics in Design-Technology learning in junior high schools was planned and to be organized in Hiroshima University High School. In this workshop, professors and students from National Taiwan Normal University, Taiwan, were to be invited to share their expertise and insights. But due to the world-wide spread of Covid-19 infection, this exchange workshop was cancelled. But another idea of international exchange was quickly conceptualized due to the popularization of online meeting platforms like Zoom. The Design-Technology Education Online Exchange Forum was then created to serves as a platform to allow the exchange of ideas for teaching and learning of Design-Technology. Design-Technology is a subject closely related to design education at junior high school and high school level. This online exchange forum was conducted using Zoom. The online exchange forum was co-organized with teachers from Hiura Junior High school and Hiroshima University High School. Five sessions of the Design-Technology Education Online Exchange Forum were successfully completed. The speakers invited are design education practitioners/researchers from Singapore, Australia, New Zealand and Taiwan were invited to share their insights in Design-Technology education. The participants in this forum are Design-Technology teachers and academics that are from Japan, Taiwan, Singapore, Australia and New Zealand. (九州大学大学院芸術工学研究院 助教 LOH Wei Leong, Leon)	http://life-green-peace.org/blog/

健康支援	自宅でできる運動の紹介 (足踏み運動のススメ)	不要不急の外出の自粛の中、運動不足になることが懸念されています。特に歩行量が大きく減りやすく、それを防ぐための足踏み運動の紹介を Web や SNS 等にて公開しました。 (九州大学大学院芸術工学研究院 教授 村木里志)	https://www.design.kyushu-u.ac.jp/~muraki/pdf/stepexercise.pdf
健康支援 在宅ワーク・学習	タブレット・スマートフォンなどを用いて在宅ワーク/在宅学習を行う際に実践したい7つの人間工学ヒント	感染拡大防止のため、従業員は在宅ワークを、生徒・学生はオンラインでの受講を余儀なくされています。このヒント集は最新の研究知見を参照し、お金をほとんどかけず(または無料で)、タブレット・スマートフォンなどを使用して在宅ワーク/在宅学習する皆様がすぐに実践できる、実用的な人間工学ヒントを提供しています 【発行者:一般社団法人日本人間工学会】 (九州大学大学院芸術工学研究院 教授 村木里志)	https://www.ergonomics.jp/usertype/company/11624.html
学術 健康支援	日本学術会議(一般公開イベント)・公開シンポジウム 「健康で長生き - 未来社会を開くヘルステック・イノベーション -」	メインテーマ「科学技術と社会、倫理:ポストコロナ時代を乗り越えるヘルステックの迅速な社会実装に向けた「共創」について考える」でのコメンテーターとして参加し、また「人間のテクノロジーに対する適応能力からみたヘルステックイノベーションのあるべき姿」にて講演しました。開催日:2020年8月6日 (九州大学大学院芸術工学研究院 教授 村木里志)	http://www.scj.go.jp/ja/event/2020/293-s-0806.html
オンライン活用 国際デザインワークショップ	Global Goals Jam Fukuoka x Kyoto Online 2020	Global Goals Jam は、持続可能な開発目標、SDGs(Sustainable Development Goals)の達成に向け、グローバルな視点で持続可能性を考え、ローカルな課題解決のアイデアを生み出す2日間の国際的な市民参加型ワークショップです。2020年は、フルオンラインの環境を活かした初の試みとして福岡と京都の2つの都市を結び、地域を超えたワークショップを開催します。京都と福岡それぞれのローカルな課題に着目し、参加者や課題のステークホルダーの視点を共有しながら共に創ることに取り組んでいきます。 開催日:2020年9月19日-20日 (九州大学大学院芸術工学研究院 講師 張彦芳、助教 稲村徳州)	https://www.kidnext.design.kyushu-u.ac.jp/5117?lang=ja

共同研究	声への「集中力」が高まるイヤホンの物理特性を見出しました	九州大学大学院芸術工学研究院 河原一彦准教授とオーディオメーカー株式会社 final は、イヤホン・スピーカの特性に関する共同研究において、「話し声を聞き取りやすくする」ことができるイヤホンの物理特性を見出しました。 河原准教授と final は、この共同研究の成果を、音楽を楽しむ以外の目的にも利用することで、より一層の社会貢献ができないかと検討しています。そのような中、コロナ禍により、学校の授業がオンラインで実施され、さまざまな個人学習のオンライン化も急速に拡大してきました。こういった学習環境の変化に役立つ製品を提供しようと、「話し声を聞き取りやすくする」物理特性を利用して株式会社 final が開発したのが、声への「集中力」が高まる学習専用イヤホンです。 (九州大学大学院芸術工学研究院 准教授 河原一彦)	https://www.design.kyushu-u.ac.jp/topics/11241/ https://final-inc.com/collections/earphones/products/study1-jp
オンライン活用 オンライン会議	『アジアデザイン会議 サブイベント Get-Together Session ～ポストコロナにおけるデザイン研究と教育～』	2020 年から芸術工学研究院が開催しているアジアデザイン会議は、アジアのデザイン系大学の連携による新たな学術研究領域をアジア圏で創出し、デザイン学の教育研究拠点を形成することを目的とし、教育・研究における国際化を推進しています。7 月 22 日に開催されたサブイベントでは、九州大学大学院・芸術工学研究院、台湾・国立台北科技大学、インドネシア・バンドン工科大学から参加した教員や学生(計 33 名)によるコロナ禍、コロナ禍後の実践的教育が紹介され、活発な議論が交わされました。 2023 年 1 月 28 日(土)14:00～16:00 には、九州大学創立 111 周年記念 VISION EXPO 関連行事として、第 3 回アジアデザイン会議がオンラインで開催される予定です。 (九州大学大学院芸術工学研究院 助教 下村萌)	https://www.design.kyushu-u.ac.jp/topics/13720/
オンライン活用 講義	Design in Japan A/Understanding Japanese Design A	“Design in Japan A/Understanding Japanese Design A” is a subject of the School of Design and Graduate School of Design where faculty members from diverse fields of specializations, such as architecture, perception, painting, origami-based engineering, etc., introduced Japanese design from their respective points of view. The subject provides a one-stop opportunity to learn about design from a wide variety of disciplines. It was part of the “Program for Understanding Japan” and opened to students from all schools and graduate schools of Kyushu University. The subject was conducted all in English and in a hybrid format with face-to-face and online participation for students who were unable to enter Japan due to the COVID-19 pandemic. There were lectures and workshops conducted with students engaging in group discussions, practices, and experimentation. We have a total of 35 students joining the subject from 10 countries: Japan, America, China, Finland, Germany, Holland, India, Indonesia, Senegal, and Thailand. Of these, 54% of the students were international, and 46% were local. (九州大学大学院芸術工学研究院 助教 下村萌)	https://www.design.kyushu-u.ac.jp/en/topics/13728/